

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第46回放送の概要 (2012年3月24日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬悟

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) エキストラ珈琲は、神戸で初めてのコーヒー豆焙煎問屋として、大正12年に誕生。その伝統ある個性的な存在は、高級コーヒーを厳選し、評価に値する味を提供する店として、広く皆様に愛されています。大河ドラマ「平清盛」にちなみ清盛コーヒーを販売中です。また清盛ゆかりの神社仏閣4か所に開設された「清盛茶屋」の運営に携わっています。電話は078-671-0135です。

1. ゲストコーナ (1): 勝 順一さん (54 陽会)、榎本浩二さん (62 陽会)、小林正美さん (64 陽会)、岡野雅昭さん (64 陽会)、岡田 実さん (64 陽会)

勝さんは総合クラブ武陽会会長、武陽野球クラブ会長、榎本さんは武陽会副理事長、武陽会事務局長、小林さんは神戸武陽会会長、武陽会副理事長、岡野さんはスリープラス株式会社社会長、岡田実さんはスリープラス株式会社社長です。岡野さんと岡田さんは15歳の時兵庫高校で出会い、出席番号が続いていたのが縁の始まりです。大学も同じで部屋は違うが同じアパートでした。このような5人のメンバーになったのは、丸五市場のアジアナイト屋台で飲んでいる時にこの番組への出演を依頼されたのがきっかけで、兵庫高校の大先輩である島田さんに関する催しが近々あるのでその関係者と一緒に出演することになった。岡野さんと榎本さんは同じ兵庫高校吹奏楽部で、また5人は2カ月に1度開催される神戸武陽会にもよく参加されています。兵庫高校の同窓会(武陽会)の支部組織として神戸武陽会と東京武陽会がある。また神戸武陽会は武陽会の総会を兼ねている。総合クラブ武陽会が昨年出来たのは、各クラブOB会の横の連携がとれていなかったため、各OB会をまとめ、組織を強化するために作ったもので、各クラブ部員(現役生)の支援もすることになっている。

勝さんは兵庫高校から甲子園に出場したことで有名です。二中時代第1回夏の大会(大正4年8月)に出場、兵庫高校では春の選抜に4回出場している。

4回目は昭和41年に勝さんが出場したが、その後兵庫高校は甲子園には出場していない。武陽野球クラブ会長になる資格は甲子園出場者になっているが、勝さんは既に12年会長職にあるので、組織が疲弊しないよう早く若い人に譲りたいと思っている。OBから武陽会費と共に集めている部活動後援会費の支給基準は、近畿大会以上に出場した時に使ってもらうことにしているが、最近



私学が強いためお金の使い道がなく、今は規定を変えて出場が決まる前でも支給できるようにしている。総合クラブ武陽会はそのような場合の金の使い道を判断することになっている。

夏の全国大会第1回予選からずっと出続けている高校が全国に15校、兵庫県で3校しかない。従って兵庫高校は21世紀枠に近い位置になることになる。県でベスト4になると資格ができるので中学生は兵庫高校を目指して欲しい。勝さんが甲子園に出場した時は高知高校に対しボロ負けをした。勝さんは投手で被安打22本、そのうちホームラン3本で、ホームランは当時の大会新記録になった。このような安打数の場合得点は18~19点になるが、要所を押さえ10点で済んだ。選抜は秋の近畿大会の結果で決まるが、近畿大会に出るには県大会で1,2位になる必要がある。その時は兵庫県の2位になり、大阪1位で優勝候補、40戦以上負けなしのPL学園に当たった。体格も大きいので試合前から勝てそうにないと思っていたが、試合になると1対1が続き9回裏兵庫高校は3番がフォアボールで出塁、4番がレフトオーバーの2ベースで2,3塁、敬遠満塁策で、当たりのなかった6番前畑が2球目デッドボールに当たりサヨナラ勝ちになった。2回戦は勝てると思った高野山高校に3対1で負けてしまった。

2. ミュージック：イルカ「なごり雪」

ゲストの岡野さんの選曲です。高校2年の冬に当時は全国的にも珍しい修学旅行でスキーに行った。スキー場に入る前に善光寺に立ち寄った。雪が降っていたこともあり甘酸っぱい想いを思い出す同級生が多いのではと思って選曲した。

3. ゲストコーナ（2）

今年は沖縄が本土復帰40周年を迎えます。沖縄と兵庫県、神戸市そして兵庫高校は非常に強い繋がりがある。戦前最後の沖縄県知事の島田勲さんが兵庫高校前身の二中の出身であることから節目の年である。

「島田勲さん」は、武陽会の7陽会の方で生きておられると110歳です。西須磨小学校から第二神戸中学校に進まれ、二中時代は野球部で活躍し第1回甲子園大会に出場された。その後第三高等学校、東京帝大に進まれ、野球のスター選手として活躍された。卒業後は官吏として主に警察畑を歩まれた。昭和20年1月2日に沖縄県知事の就任が決まった。当時沖縄はアメリカ軍が迫っていたので沖縄に行くことは死を意味していた。上司からは行けではなく行ってくれるかと言われ断ることは出来たが、断ると外も歩けなくなる、卑怯者になる、また自分が断ると他の人に死に行けと言うことになるので即受けられ昭和20年1月10日に赴任された。

赴任後、島田さんは酒、煙草の統制品や村芝居を解禁し、住民が苦しい中で少しでも楽しめるようにした。北部への疎開についても軍と折衝し住民の移動を進めた。食料確保のため自ら台湾に出向き蓬莱米3000石を調達した。赴任後、出来ることを誠心誠意取り組まれた結果県民の信頼を獲得された。

アメリカ軍の侵攻に伴い県庁を移していくが、軍から南に行くよう命令があるが、南はすでに住民が避難しているので、攻撃の対象となる県庁組織が南に行くことは標的になるため固辞したが、結果的には行かざるを得ない状況になった。全員が死んでしまうような状況になった時、自ら生きていきなさいと言って県庁組織、警察組織を解体した。残った島田さんと警察署長は摩文仁岳で自決された。前年10月に那覇大空襲があり、行けば確実に死ぬことが分かっていたながら赴任された。前任の知事が香川に出張中に島田さんに辞令が出たのである。



このように素晴らしい大先輩であり、沖縄の秋の野球大会の優勝チームには島田杯が贈られている。島田杯は兵庫高校、武陽会から贈ったもので、兵庫高校校長室には同じ銀杯が飾られている。兵庫高校でも全国大会で活躍した人に島田杯が贈られている。

摩文仁岳に県民の浄財で建てられた島田さんや県職員、警察の方を慰霊する「島守の塔」があるが、武陽会 100 周年記念事業として、その横に島田碑を建立し、少し小さいが同じもの兵庫高校に入った所に置かれている。そこには島田さんの座右の銘「断而敢行鬼神避之」（断じて敢行すれば鬼神も之を避く；決意を持ってやればどのようなことも成しうる）が刻まれている。昭和 39 年に沖縄の方向に手のひらが向いた合掌の碑を兵庫高校に建て、詩人の竹中郁さんが銘文を書かれている。昨年那覇高校から見学に来られている。



このグラウンド
このユーカリプタス
みな目の底に
心の中に収めて
島田叡は沖縄に赴いた
一九四五年六月下浣
摩文仁岳近くで
かれもこれも砕け散った
(竹中郁さんの銘文)

10 年前、30 周年記念ということで県民交流推進委員会、沖縄県人会兵庫支部、武陽会の 3 者で県民ホールで沖縄、兵庫両知事、懇親会には神戸市長も来られ島田叡さんを語り継ぐ会を行った。今回 40 周年は武陽会単独で 30 周年とは違うものを武陽会らしくやりたいと思っている。開催日は平成 24 年 7 月 8 日（日）17 時～19 時、神戸朝日ホールで入場料をとり、武陽会を主体として行う予定。

神戸泡盛の会は 2 カ月に 1 度開催されているが、泡盛を飲みながら島田さんを語り継いでいる。泡盛の会の事務局長は須磨区の島田さんの家のすぐ近くで生まれた方で、島田さんの事を聞いて立派な方が自分の生まれたすぐ近くにおられたことに驚き、今は武陽会員以上に詳しい情報を持っておられ、今回の事業はこの方の力をお借りすることになっている。

中央官僚がていたらかな時期に、島田さんのような官僚が今本当に必要であり、素晴らしい先輩の遺徳をこれからもどんどん継承していかなければならない。武陽会と兵庫高校は今太いパイプで結ばれているので、現役の学生にもっと知ってもらいたい。沖縄の二中である那覇高校のOBと武陽会とのOB会同士の交流について話を始めている。また現役同士の交流に発展すればと思っている。

4. なかちゃんコーナー；県内県立高校（普通科）の学区再編について

なかちゃんは昨年暮れに神社裏山にHP用の写真を撮りに行った時、2 米程の崖を落ちた。足首と腰椎を骨折、3 カ月入院していた。医者から、今だからこの程度で済んだが、10 年後はこれでは済まないよと言われた。皆さんよく気をつけてください。

いま、県内普通科の県立高校の学区が統合・再編されようとしている。3 年後の平成 27 年度から実施される。現在、中学校の新 2 年生の高校受験から適用される。現在の 16 学区が 5 学区になる。学区が見直しされると、入試制度、受験方法が変わる。一部地域の学区でも行われている複数志願選抜制が全県に導入され、学区内で希望する 2 校まで志願できることになる。

5 学区は、①神戸・芦屋・淡路の 19 校、②阪神・丹波の 29 校、③播磨東の 20 校、④播磨西の 20 校、⑤但馬の 7 校、になる。地元の「神戸・芦屋・淡路」学区では、神戸第 1・芦屋学区だった 4 校（東灘、御影、神戸、芦屋）、神戸第 2 学区だった 5 校（神戸鈴蘭台、神戸北、夢野台、兵庫、長田）、神戸第 3 学区だった 7 校（須磨東、北須磨、星陵、舞子、伊川谷、伊川谷北、神戸高塚）、淡路学区だった 3 校（洲本、津名、淡路三原）が含まれる。

再編の必要性については、最近では、高校進学率がなんと98%になり、交通網の整備や市町合併などで生活圏が拡大したこと、また小児化で中卒者が約48,000人と平成年代に入る前の55%に減り、さらに10年後には45%になってしまうようで、その大切な子どもたち、生徒たちが、個性や関心に応じて高校を選べるよう、その選択肢を拡げる意味合いもある。

このような大きな改革には、賛成意見・反対意見も多くあり、現在検討を続けられている。例えば、

① 遠距離通学の負担が大きくなる。

これに対しては、通学費支援制度の検討や、但馬では現在実施されている地元生徒の優先的入学の連携校方式の継続も考えられている。

② 人気のある都市部の学校に生徒が集中して、学校の序列化や、過疎地の学校は志願者が減少して統廃合につながる。

大学が序列化している現状では、高校の序列化が進んでも仕方がないし、優秀な人材育成のためには必要である、という意見もある。また、今後の必要な対策として、特色ある教育・授業の実施などで学校の魅力づくりが重要と言われているが、学区拡大で地元生徒が少なくなり、遠距離通学などで通学活動が制限され魅力づくりが進まない。結局、生徒が集まるのは都市部の高校だけだ、という意見もある。

③ 自宅近くの学校や、選択肢が増えて学力に合った高校が選べる。また、生徒の学力レベルが揃うので、授業が効率的になり、しかも生徒たちが刺激しあってマインドが高くなる。

ところが、学区拡大は交通網の制約や遠距離通学の回避などで、選択肢の増加にはつながらない。また、受験生が定員割れしたりすると生徒たちが切磋琢磨できず、部活動が制約されて、学校の活力が低下する、という見方もある。

結局のところ、一般的に言って、都市部の大学進学率の高い一部の高校に志望が集中するのは目に見えている。学校としては、特色ある教育で生徒たち・保護者たちの注目を集めるような魅力づくりを心がけるしかないように思われる。でも、やはり自宅から通学しやすいという判断基準も大きく、中学校での進路指導の際に、ある程度、方向性が安定してくるので、それほどびっくりするような変動は起きないかも知れないが、当面の4～5年は試行錯誤もあって、現場は混乱することが心配される。

5. エンディング：神戸武陽会からのお知らせ

4月2日の神戸武陽会会合では田辺真人先生（53陽会）に平清盛に関する講演をしていただくことにしている。申込締め切りは3月30日です。場所は楠公会館です。6月2日は武陽会総会、8月2日は船で大輪田の泊に向かいます。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：yuukarinikanpai@gmail.com